

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100373		
法人名	株式会社しんわ		
事業所名	グループホーム生馬の郷(さくら)		
所在地	島根県松江市東生馬町386番地		
自己評価作成日	令和5年11月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・周囲を田んぼや山に囲まれた、のどかな自然環境の中で、四季を感じながら生活が送って頂ける。 ・散歩コースには草花、木の実等自然を感じることがたくさんあり、利用者の方々の喜ばせている。 ・家庭的な雰囲気作りに努め、利用者職員、利用者同士が互いに支え合う関係が築かれている。 ・地域の行事に参加したり、地域からのボランティアを受け入れたりするなど、交流を深めている。 ・運営推進会議などを通じ、活動報告や意見交換を積極的に行う事で、地域との交流を深めている。 ・以前行方不明事故があり、それを機に行方不明時のマニュアルの見直しを行った。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が意見を出し合い、新しい理念を作成した。 全体ミーティングで、グループワークを行い理念を実践するために思いを共有する取り組みをしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の川そうじ等スタッフが地域行事に参加している。 ホーム敷地内の畑での野菜の栽培、草刈りなど地域の方々に協力してもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で事例等の報告をしている。 地域からの依頼で認知症についての講演会を行ったこともある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議ではホームでの取組みの報告を行っている。実際に火災想定での避難訓練の様子を推進会議のメンバーに見学してもらい、助言を頂いたこともある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村職員には、運営推進会議の構成員として参加してもらっているほか、指導や随時の相談などを通して協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加したり、内部研修として、全体ミーティングで勉強会を行い、施錠も含めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束廃止委員会を立上げ、概ね3か月に一度開催している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、内部研修として、全体ミーティング、カンファレンスで勉強会を行い、身体、心理的虐待のないケアに取り組んでいる。 虐待防止委員会を立上げ、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	もう一方のユニットには制度を利用されている方もおり、専門の方へ相談の上、ケースに応じ制度の説明や助言を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に話し合いの場を多く持ち、契約時の説明も十分行い、理解や納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者とコミュニケーションを多くとり、意見、要望を聞いている。家族からも来訪時や電話、SNSの活用等で意見、要望を頂いている。(近年、家族懇談会は新型コロナのため開催を中止している)		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングやリーダー会、ユニットでの意見や提案を運営に反映させている。毎年、スタッフとの面談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の思いの把握に努めている。資格取得への支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じ研修に参加している。外部研修の内容は、研修報告書や全体ミーティングなどで報告している。毎年個々で目標を設定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	しまね小規模ケア連絡会、松江地域グループホーム部会に加入し、それぞれの会の事務局、事業運営の役員としてネットワーク作りや情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で、本人からの要望等を確認し、安心して頂ける関係作りに努めている。生活歴を把握しやすいアセスメント表を使っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接で、家族からの要望等を確認し、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と相談し、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽を共にしており、互いに支え合い、いたわる関係が築けている。食器の片付け、洗濯物仕事(干し、たたみ)等にも日々参加してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族ができる役割を尊重し、共に本人を支える関係づくりに努めている。(受診の付添い、外泊、外出、菓子類・日用品の購入、美容院同行等コロナ5類引下げ後は少しづつその機会も増えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や近所の方の来訪がある。新型コロナの影響で外出の機会は少ないが、友人等からの電話はある。家族と馴染みの美容院へ行かれている方もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	長年の席には配慮している。利用者同士で声を掛けあったり、下膳など手伝われる場面も見られている。レクリエーション(歌、ゲーム、おはじき等)を行い雰囲気作りをしている。タブレット等も活用し昔の映画や歌手の動画も見ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、次の生活の場で安心して生活ができるよう、情報提供等必要な支援をしているほか、様子伺いもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での利用者との会話の中で、希望や意向の把握に努めている。家族からの要望も含め本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントや、入所後、本人、家族から聞き、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活から、個々の生活リズムを把握している。毎日の状態変化に合わせ、個々にできる役割を見つけている。 カンファレンス等行いながら職員間で情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員それぞれに話し合い、出た意見を反映させている。モニタリング表を使って月毎に変化を把握している。状態変化があった時に、都度カンファレンスを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、ケース記録で日々の様子、気づきを記録し共有して実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の支援、買物の支援などニーズに合わせて対応している。協力医師・歯科医師、訪問看護、調剤薬局と連携し医療面への対応も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館、交番、町内会、民生委員など運営推進会議に参加して頂き、連携を密にしている。 (新型コロナ5類引下げ後は、できるだけ対面で推進会議を行っている)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族のかかりつけ医継続の希望を大切に、通院、往診の支援を行っている。 協力医には、毎月の受診、往診、電話での相談、緊急時の対応をしてもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師来訪時に情報共有、相談等の時間を十分にとり、指示を仰いで、必要な看護が受けられるよう支援している。必要時は看護師と電話相談することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際、医療機関と情報交換を行っている。 協力病院等と連携が取れる関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針に基づき、入所の段階から話し合い、説明を行い、意向の確認をしている。段階に応じて意向を確認するようにし、看取りの支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法の研修や、緊急時のマニュアルの確認などで実践力を身に付けている。 AEDを設置し、使用方法の講習も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災想定での避難訓練を実施している。地区と協議し、非常時の一時避難場所を確保している。非常用の食糧等の備蓄がある。公民館にも協力してもらい水害想定での訓練を実施したこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や言葉遣いについての社内研修を行っている。人格やプライバシーに配慮した声掛けをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～してもらえませんか」など、利用者が選択、決定できる場面を作るように工夫している。食事や茶話会の場を一緒にし意見を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしている。朝起きれない人、飲茶の時間休みたい人は希望通りにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出、行事の際の化粧、洋服など配慮している。温度に合わせた服選びや服の組み合わせ、整容にも日頃から気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けなどを利用者と共に、職員は利用者と一緒に食事をしながらさりげなく支援している。食の細かい方、好き嫌いがある方への配慮も行っている。軟飯、トロミ食、刻み食等にも対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の一日の水分、食事摂取量を記録し把握に努めている。栄養バランスは、献立作成時や調理の際に考慮している。個々に合った量、形態で提供している。居室でお茶を飲む方には必要な支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に合わせた用具を用い、個別に口腔ケアを行っている。義歯は就寝前洗浄液に漬けている方もいる。口腔ケア用品の消毒をし、清潔に保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。パットを昼夜で使い分ける工夫もしている。排泄用品の正しい使用方法について業者さんを招き、研修を実施したこともある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握、乳製品、食物繊維を摂ってもらう工夫をし便秘の予防に努めている。必要に応じて腹部マッサージや、下剤等も調節しながら使っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間を決めず、希望やタイミング、体調に合わせて入浴してもらっている。シャワーチェア、シャワーキャリーを使い負担が少なく、入浴が楽しめるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡や就寝など一人ひとりの習慣、状況に応じて支援している。安眠できるよう、足元灯なども使用しながら明るさや温度の調節、飲物の準備をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を個人ファイルに綴り情報把握に努めている。服薬は他のスタッフに口頭で伝えた上で、本人に手渡し、確認している。錠剤がのみにくい場合は、Dr.へ上申し、粉碎等依頼している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力に合わせた家事的役割や、買物など楽しみが持てるよう支援している。誕生日には特別献立にし、お祝いしたり、行事の際にはお酒や外注でのご馳走、ケーキなどを準備し、喜ばれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を聞き、散歩やドライブ、買物に出掛けている。家族の協力で外出する方もおられる(新型コロナ5類引下げ後は、外出の機会も増えてきている) ウッドデッキや庭、玄関先での日光浴などで戸外に出ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望で個々にお金を持っておられ、買物で使われたり、使われなくてもある事で安心されるよう工夫している。 遠足等で出掛ける時には、個別に小遣いを持って出ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望で電話を掛けられたり、掛かってきた電話の取次ぎや、年賀状、手紙の投函の支援をしている。携帯電話を所持し使用されている方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所からホール全体が見渡せ、食堂からは山が見え四季折々の風景が楽しめる。 ウッドデッキに椅子を置き、憩いの場としている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、玄関ホールにソファを置いている。 食堂の席は気の合った人同士になるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物品を持ってきて頂けるようお願いしている。家族の写真、仏壇等を置いているほか、物の配置に配慮したりして、居心地のよい居室作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車イスでの移動を考え、動き易いようにしている。表札等で混乱が少なくなるよう工夫している。全居室にトイレがある。		